

国際化学物質安全性計画

内分泌かく乱化学物質の科学的現状 に関する全地球規模での評価

Global Assessment of the State-of-the-Science of Endocrine Disruptors

世界保健機関(WHO)、国際労働機関(ILO)、国連環境計画(UNEP)

の代表専門家グループによる評価

編集

Terri Damstra, Sue Barlow, Aake Bergman, Robert Kavlock, Glen Van Der Kraak

WHO/PCS/EDC/02.2

Published by the World Health Organization in 2002
under the title *Global assessment of the state-of-the-science of endocrine disruptors*
(WHO/PCS/EDC/02.2)

© World Health Organization 2002

The Director-General of the World Health Organization has granted translation rights for an edition in Japanese to the National Institute of Health Sciences, Tokyo, which is solely responsible for the Japanese edition.

国際化学物質安全性計画(IPCS)は、1980年に設立された、国連環境計画(UNEP)、国際労働機関(ILO)及び世界保健機関(WHO)の共同事業である。IPCSの全般的な目的は、化学物質の安全性推進の必要条件として、化学物質への暴露によるヒト健康及び環境リスク評価のために、国際的なピア・レビュー過程を通じて科学的根拠を確立し、また化学物質の適正管理に関して各国の能力強化のための技術支援を行うことである。

化学物質の適正管理のための機関間プログラム(IOMC)は、1992年の国連環境開発会議(地球サミット)における化学物質の安全性分野の協力強化と調整増進のための勧告を受けて、UNEP、ILO、国連食糧農業機関、WHO、国連工業開発機関、国連訓練・調査研修所及び経済協力開発機構(参加機関)により1995年に設立された。IOMCの目的は、ヒトの健康と環境に係る化学物質の適正管理を達成するため、参加機関が遂行している政策や活動の調整を、共同で又は個々に推進することである。

© 世界保健機関、2002年

本文書は、世界保健機関(WHO)の公式な出版物ではない。また著作権等すべての権利はWHOに帰属する。